町医者だより

平成20年04月号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口)
１分ミスタードーナツ並び
スーパーつるかめ（旧フレック）2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

ＭＲＩ検査の造影剤に関する注意点

日本では薬の副作用情報の伝達システムがいまだ未熟です。私も新聞報道で初めて知った、という副作用もあります。まだあまり知られていませんがＭＲＩ（磁気共鳴画像）用の造影剤で非常に重い障害を生じる場合があることが分かってきましたのでご紹介いたします。

腎臓透析をしている患者さんは使用禁止

ＣＴ（コンピューター断層）検査で使用する造影剤はヨードを含む水溶液ですが、脳や背髄や骨盤などのＭＲＩ検査で使用する造影剤はＣＴの造影剤とは全く異なりガドリニウム（Gd）という金属を含む水溶液です。２０００年に透析を受けている患者さんで徐々に全身の皮膚が突っ張って硬く痛みを伴うようになり、さらに肝臓、筋肉、肺など全身の臓器の線維化が起こり死亡したとの報告がなされました。後に、腎性全身性線維症（nephrogenic systemic fibrosis NSF)という名前で呼ばれるようになったのですが、この病気が先に述べたＭＲＩ用造影剤のガドリニウムが全身に蓄積して起こる事が確認されました。

腎臓の働きが悪い方も要注意

腎性全身性線維症（ＮＳＦ）は透析を受けている方に起こりますが、透析を受ける程ではないが腎臓の働きの悪いという方にも起こる可能性があります。今年の3月に日本放射線学会からＭＲＩ造影剤使用の指針が発表されましたが、ご心配な方はＭＲＩ検査前に病院の放射線科医師にお確かめになると良いと思います。

おわりに

誤解しないで頂きたいのは、ＭＲＩ検査そのものが悪い検査ではないということです。脳背髄疾患や婦人科疾患などの病気の診断に不可欠です。私たち医療側の人間にとってショックだったのはＣＴの造影剤に比べて安全性が高いと思っていたＭＲＩの造影剤でこのような重篤な副作用が8年も前から起こっていた事をまったく知らなかったということです。最初に述べたように日本は副作用の情報が伝わりにくいと思います。自衛策としてアメリカの薬剤副作用情報にも目を通す必要性を痛感する今日この頃です。